

## 五ヶ瀬町の児童生徒のRS向上を目指して

## 町内全職員における取組に向けた、教頭会による支援（案）

RSの重要性が分かっているにもかかわらず、先生方に取り組んでももらわないことには何の効果も得られない。そこで、先生方に取り組んでもらうためのアイデアとして次のようなことを考えた。

## アイデア1

## 「教材」の作成・提供

授業でも扱え、宿題にもできるように、パッケージ化された教材として提供する。教師と一緒に取り組むこともでき、児童生徒が一人でも取り組むことができるような教材であることや、年間を通して取り組むことができることなどを目指して作成・提供する。

## アイデア2

## 「指導案・発問案」の作成・提供

教科ごと、もしくは単元ごとに、授業における指導案、発問案を作成・提供し、教科書の教材を使った指導ができるようにする。このことにより、単元の指導とは別の時間を設定して指導するのではなく、単元の指導の中で無理なく指導できるようにする。

## アイデア3

## 「指導や発問の在り方」の情報提供

指導の方法についての情報を提供し、それぞれの先生方に自ら意識して日々の授業に活かしてもらう。

また、それぞれが行った指導や発問を教頭会が集約し、共有化する。また、それらを使って指導や発問の善し悪しや在り方を研究し、先生方にフィードバックする。

我々が目指すのは、五ヶ瀬町の児童生徒にRSを身に付けさせることである。そのために教頭会ができることは次の4つであると考えます。

- ① 「町内の先生方への意識変革」のための「情報の提供」を行うこと。
- ② それぞれの学校で、先生方の優良な実践を引き出すサポートをする。
- ③ 優良な実践を町内へ紹介し、普及促進を支援する。
- ④ できるだけ早い段階で、教頭会主導ではなく、先生方が自ら児童生徒のRS向上を目指して、自主的に研究や実践を進めていくような状況を作る。

## なぜリーディングスキルを重視するのか

新井紀子氏による2万5千人の児童生徒を対象に行った調査で明らかになった事実

**読解能力値と進学できる高校の偏差値との相関は極めて高い！**

## 調査で明らかになった児童生徒の実態

- 中学校を卒業する段階で、約3割が（内容理解を伴わない）表層的な読解ができない。
- 学力中位の高校でも、半数以上が内容理解を要する読解ができない。

つ  
ま  
り

長文の読解以前に、「教科書に掲載されている記述」や、「テストの問題文」などの文章の意味内容を読んで正しく理解することができていない児童生徒が多数いる。

さらに…

## 勉強ができる児童生徒いわく…

「授業中、教科書の文を読んだり、先生の話の聞いたりしているだけで、学習内容が理解できるんです。」

## この言葉が意味することは

「教科書や参考書などの記述」や「先生の話」は、言葉、数、式、図、表、グラフ、写真などによって表されている。

したがって、これらの情報を読解する技術であるRS（リーディングスキル）が、学習内容の理解度に大きな影響を与えている。

RSが高まれば、全ての教科の学習理解が容易になる！！

五ヶ瀬町では、平成30年度、小学校第6学年、中学校全学年において、新井紀子氏が開発したRST（リーディングスキルテスト）を実施した。さらに、その結果と全国学力・学習状況調査の結果との相関を調べた。すると、学力調査結果が高い児童はRSが高く、逆も同様の相関が見られた。

また、埼玉県戸田市では、2016年以降RSTを受検しており、教科研究会の中にRS部会を立ち上げて研究を行ったり、学校によっては練習問題を自作したりしている。これらの取組を行ったところ、県の学力調査で常に中位だった戸田市が、中学校1位、小学校2位となった。

**五ヶ瀬町の子どもたちにもぜひRSを身に付けさせてあげたいですね！！**

## RSの6つの観点

## 1 係り受け解析（主語と述語、修飾語と被修飾語の関係の解析）

おじいさんは山に急いで芝刈りに行った。  
山に行ったのはだれですか。 おじいさんです。  
どのように行ったのですか。 急いで行きました。

## 2 照応解決（指示語や代名詞が何を指すかの照応）

彼女はハンカチを落とした。私はそれを拾った。  
わたしが拾った「それ」とは何ですか。 彼女の落としたハンカチです。

## 3 (1) 具体例同定：辞書（国語辞典的定義と具体例が合致しているかの読解）

天然資源には水などの無生物資源と、魚などの生物資源があります。では鶏糞は天然資源ですか。  
天然資源ではありません。（鶏糞は生物ではないので天然資源ではない。定義を拡大解釈すると間違ってしまう。）

## 3 (2) 具体例同定：数学（数学的定義と具体例が合致しているかの読解）

平行四辺形は、向かい合う辺が平行な四角形です。では、正方形は平行四辺形であると言えますか。  
言えます。（正方形は平行四辺形的一种である。定義に当てはまるかどうかをチェックする力が必要である。）

## 4 同義文判定（2つの文の意味が同じか否かの判定）

「彼だけが欠席した。」 「彼以外の人出席した。」  
上の2つの文の意味は同じですか。 同じです。

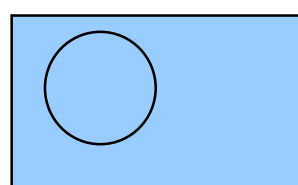
## 5 推論（文章の意味を既存の知識を使って推測）

山田君はこの学校の誰よりも背が高いです。では「佐藤さんは山田君より背が低い」と言えますか。  
言えます。（1文目の内容から、2文目の内容は正しいと推測できる。）

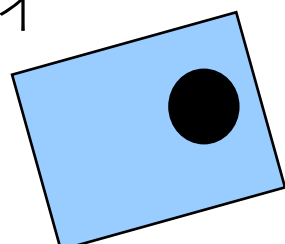
## 6 イメージ同定（文章と図形の表す内容が一致しているかどうかの理解）

四角形の中に黒く塗りつぶされた円がある。

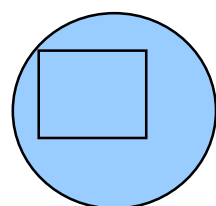
ア



イ



ウ



この文を表しているのは  
ア、イ、ウのどれですか。  
イです。

## RSを高める指導のあり方

児童生徒のRSを高める方法を新井紀子氏が調べたところ…

RSの向上や低下に与える影響として、読書量、スマホゲームの時間、などは関係がないことが分かった。

もっと言うと、RSを高める手立ては今のところ見つかっていない。

しかし、次のことは明らかになった。

- 読解能力値は中学生の間までは平均的には向上する。
  - 読解能力値は高校では向上していない。
- ➡ 中学校までがチャンス！！

そして、最も重要なのが次の点である。

RSが向上し、学力がアップした戸田市では、日々の授業の指導者である教師の意識が変わったことが大きな要因であると考えられている。

そこで、五ヶ瀬町の全ての先生方に、次のことを意識して実践していただきたい！

## RSを向上させる教師の意識 その1

全ての学年、全ての教科の指導でRSを身に付けさせる！

児童生徒のRS向上は短期間でできるものではありません。学年ごとに系統的、継続的な指導を行うことが大変重要です。指導に使う教材は「学年相応の教材」を使ったものであることが望ましいとされており、教科書教材を使った指導が基本となります。教材はそろっています。あとは、一人一人が取り組むだけです。日々、全職員で取り組んでいきましょう！！

## RSを向上させる教師の意識 その2

指導には児童生徒の表現をそのまま使う！

RS能力は、話し言葉や書き言葉など、児童生徒の表現にこそ明らかに示されます。したがって、表出する実態を、教師はもちろん、児童生徒自身が客観的に看取り、課題の発見や認識、修正を自ら行わせていくことがRSを向上させることに直結します。

そこで、指導の過程に、児童生徒の表現をそのまま使って指導する場面を設定し、実態に応じた指導を行っていきましょう。

## RSを向上させる教師の意識 その3

「分かる」ことと「できる」ことは違うことを意識して指導する

RSを身に付けさせることは「教え」れば「できる」ようになるほど簡単なことではありません。その名の通り、「スキル」は繰り返し練習しなければ身に付かないからです。そこで、「教えた内容（指導事項）」と児童生徒から表出される「表現（身に付けた事項）」との差があって当然とし、その「差をなくしていく作業（練習）」をとおして、指導事項が身に付いているかどうかを確認しながら指導を進めていきましょう。

## ① 「係り受け解析」の力を高める指導のあり方

主語と述語、修飾語と被修飾語の係り受けの関係を正しく認識する、読解の基本スキルである。スタート期から中学生まで、段階的、継続的に指導を積み重ねていくことが重要である。当該学年の教科書を使った指導を基本とし、各単元の指導内で適宜触れていく必要がある。

## 指導法 その1

教材文を使って、主語と述語、修飾語の係り受けに関する問いを出す。

## 低学年

一文を使って、主述、修飾被修飾の関係を認識させることをねらって問う。

例：やまあらしのとげはどこにありますか。どのように使いますか。

(国語科：小学校第1学年)

## 中学年

一つの段落を使って、複数の文の主述、修飾被修飾の関係を認識させることをねらって問う。

例：トノサマバッタはほご色によってどのようにてきから身をかくすのですか。

(国語科：小学校第3学年)

## 高学年及び中学生

文章全体を通して、係り受け（因果関係を含む）を意識させることをねらって問う。

例：遠洋漁業の課題は何ですか。理由はなぜですか。(社会科：小学校第5学年)

例：日本付近にできる低気圧の特徴は何ですか。なぜそのような特徴が現れるのですか。(理科：中学校第2学年)

## 指導法 その2

児童生徒の書いた文を、児童生徒自身に推敲させる。

授業の中で、児童生徒が書いた文（日記、作文、授業中の問いに対する答え等）を原文のまま教材として取り扱い、児童生徒に推敲させる。この際、教師主導で修正すべき点に気付かせたり、どのように修正すべきかを発表させたりしながら全員に考えさせるようにしてもよい。この過程で、全ての児童生徒が「係り受け」に対し理解を深めるように指導を展開する。

このとき指導すべき事項は以下のことである。

- ① 一文はできるだけ短い文で端的に表現する。
- ② 主語と述語、修飾語と被修飾語の係り受けが正しいかどうかを確認する。
- ③ 重文（太郎は走り、二郎は歩く。）、複文（二郎は、太郎を背負って歩く。）などの場合、文のねじれはないかを確認、修正する。また、その理由を考える。  
ねじれの例：ぼくが休みの日に必ずすることは、妹と犬の散歩をしています。

## ② 「照応解決」の力を高める指導のあり方

指示語が何を指しているかを正しく認識する、読解の基本スキルである。「係り受け解析」と同様に、スタート期から中学生まで、段階的、継続的に指導を積み重ねていくことが重要となる。当該学年の教科書を使った指導を基本とし、各単元の指導内で適宜触れていく必要がある。

## 指導法 その1

**指定した指示語に印を付けさせ、その指示語が指す言葉や文を確定させる。**

指示語が指す言葉や文の範囲は、それぞれに異なっている。そのため、単に「指示語が指す言葉や文は、指示語より前にある。」ことだけを指導しても、読解に生かすスキルとして身に付けるところまでは至らない。教科書の様々な文章を使って、繰り返し指導し、体験を通して身に付けさせることが重要である。

## 指導法 その2

**複数の文で構成されている文章を、指示語を使って一文にまとめさせる。**

複数の文を一文にまとめると、言葉の繰り返しを防ぐため、指示語を使わなければならない。教科書の文を意図的に一文にさせる指導は、照応解決の力を養う上で効果的である。

例：やまあらしのせなかには、ながくてかたいとげがあります。やまあらしはとげをたてて、みをまもります。てきがきたら、うしろむきになって、とげをたてます。

↓

やまあらしのせなかには、ながくてかたいとげがあり、てきがきたら、うしろむきになって、それをたててみをまもります。

※ 低学年のうち、最初から全てを作文させるのではなく、文を途中まで示し「続きを書きなさい」と指示するなど、児童の実態に配慮する必要がある。

## 指導法 その3

**複数の文をまとめた一文を、複数の文に分けさせる。**

指示語を含んだ一文を二文に分けさせることで、指示語が示す言葉の範囲を認識し、それを正しく挿入して文を作るという思考の場を与えることができる。教科書の文を使うことがのぞましいが、適切な文がない場合は、教科書の文を使って教師が自作する必要がある。

例：東北地方の夏祭りには米の豊作への願いがこめられているものがあり、観光資源にもなっており、観光客がいくつかの祭りを見て回るように日程調整が成されている。

↓

東北地方の夏祭りには米の豊作への願いが込められているものがある。これらは観光資源にもなっており、観光客が・・・

### ③ 「具体例同定」の力を高める指導のあり方

各教科で指導される言葉について、その言葉が示す範囲や定義を使って読解したり、理解したり、説明したりするスキルを指す。このスキルを身に付けるには、ただ単に知識として理解させるだけでなく、知識を活用して、説明させたり判断させたりする学習活動を行わせることが重要である。

#### 指導法 その1

各教科の学習において、示された事物や現象が、学習した言葉（定義）で表すことができるものであるかどうかを判断させ、説明させる。

例：正方形は平行四辺形といえますか。

答えるためには、正方形と平行四辺形の定義を照らして考え、説明しなければならない。

例：くもは昆虫といえますか。

答えるためには、昆虫の定義に照らして観察し、説明しなければならない。

#### 指導法 その2

各教科の学習において、学習した言葉を使って、ある事物や現象を分類させ、説明させる。

例：正方形、長方形、ひし形、平行四辺形、台形を2つに分類し、その理由を説明しなさい。

答えるためには、各図形の定義をもとに比較検討し、分類、説明をしなければならない。

例：本居宣長、大久保利通、伊能忠敬、福沢諭吉の4人をある観点から2つに分類し、その理由を説明しなさい。

答えるためには、それぞれの人物の生きた時代、遺業などをもとに分類、説明しなければならない。

ここで紹介したのは、主に単元末に、ある程度必要な知識がそろった上で示すことで、それまで学習した定義についての知識の確認、定着を促すことができる発問である。また、児童生徒にディスカッションの場を与えることで、アクティブラーニングをコーディネートすることもできる。

## ④「同義文判定」の力を高める指導のあり方

二つの文が同じ意味、同じ事柄を示しているかどうかを判定する読解スキルである。指導においては、二つの文を示して比較させるような学習活動だけでなく、実際に児童生徒に書き換えをさせた上で、児童生徒の書いた原文を使って、その正誤について検討させる学習活動が考えられる。

## 指導法 その1

各教科の学習において、同じ事柄を指す二つの文、もしくは、指していないが似ている二つの文を示し、同義文であるか否かを検討させる。

例：公園にはじめは10人いましたが、3人帰りました。  
公園から帰った3人と、今いる人を合わせると、全部で10人です。  
この二つの文は同じですか。 (小学校第2学年)

## 指導法 その2

各教科の学習において、1つの文を別の観点から書き替えさせ、同義文になっているか否かを検討させる。

例：国際連合は、平和をおびやかすような国に対し、経済制裁を加えることができる。  
この文を、「平和をおびやかす国」で始まる文に変え、例を挙げながら説明しなさい。  
(中学校第3学年)

## 指導法 その3

複数の文を一文で書き直させたり、一文を二つの文に分けて書き直させたりし、はじめの文と書き直した文が同義になっているかどうかを検討させる。

例：地域の農業の工夫や努力についてくわしく知りたいと思ったので、農業協同組合の方に教えていただきたいと考え、手紙を書きました。  
この文を、二つに分けなさい。  
(小学校第4学年)



## ⑤ 「推論」の力を高める指導のあり方

国語科の文学的文章、他教科も含む説明的文章や資料等において、文章の表す内容を、既存の知識を使って読み解き、そこに表される意味を解釈するスキルである。主に高学年から中学校において、文章の内容を正しく読解するとともに、そこに内在する意味（直接的に書かれている事だけでなく、暗示的に書かれている事柄も含む）を解釈して答えなければならないような発問に答えることで鍛えられる。また、場合によってはそこに自分なりの判断や意見を交えながら答えさせる発問も効果的であると考えられる。

## 指導法 その1

文章や資料の表す主題や命題、意味を問う。また、その根拠を問う。

## 国語科

例：この物語を通して作者が言いたいことは何ですか。なぜそう考えるのですか。

例：この説明文を通して筆者が言いたいことはAですか、Bですか。

## 社会科

例：これらの資料から〇〇時代はどのような時代だったといえますか。

## 理科

例：実験の結果を示す資料から一般化できる事柄はどのようなことですか。

## 指導法 その2

文章や資料をもとにして判断させたり、意見をもたせたりする。

## 国語科

例：この説明文の題名は妥当ですか、他にも考えられると思いますか。

例：この論説文において、〇段落は必要だと考えますか、必ずしも必要ではないと考えますか。

## 社会科

例：これらの資料から、〇〇が行った政策は効果があったといえますか。

## 理科

例：この実験の結果を示す資料から、実験は成功だったといえますか。

## ⑥ 「イメージ同定」の力を高める指導のあり方

複数の資料（文章による連続テキストや式、図、表、グラフ、写真などによる非連続テキスト）が示す情報を正しく関連付けるスキルである。示された内容を正しく理解するだけでなく、そこに内在する意味（直接的に書かれている事だけでなく、暗示的に書かれている事柄も含む）を解釈して答えなければならないような発問に答えることで鍛えられる。また、場合によってはそこに自分なりの判断や意見を交えながら答えさせる発問も効果的であると考えられる。

## 指導法 その1

示された文章と資料を関連付けて考えたとき、出された結論が正しいか否かを問う。

例：資料から、Aということがいえますか。

## 指導法 その2

示された文章と資料を関連付けて考えたとき、どのような結論が導き出せるかを問う。

例：あなたは資料から、どのようなことがいえると考えますか。

## 指導法 その3

示された文章と資料を関連付けて考えたとき、どのように判断するかを問う。

例：示された資料から、AとBはどちらが正しいといえますか。

例：あなたなら資料をもとにすると、AとBどちらを選びますか。

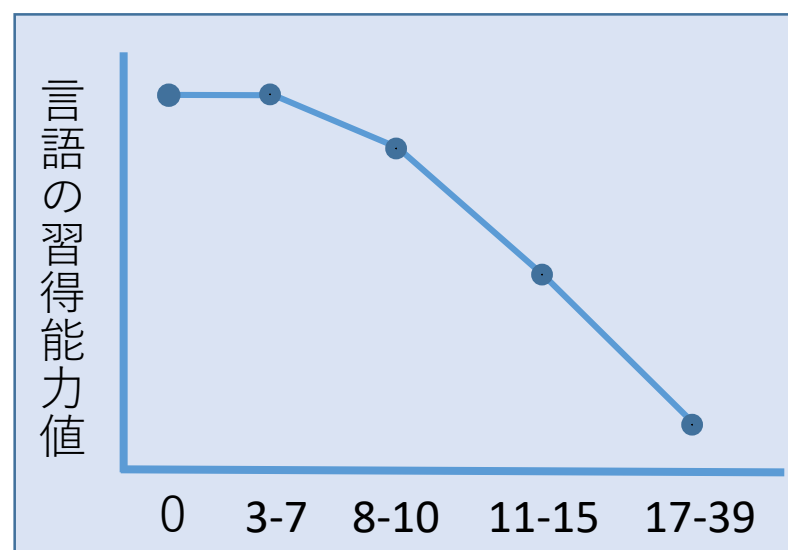
RSを鍛える指導を行う際、学級の児童生徒の基板に、「自由にディスカッションできる人間関係と学習技能」があるとより充実した学習を展開することができる。特に小学校段階で、誰もが自由闊達に発表したり話し合ったりできる学級作りをし、級友からの指摘や反論を受け入れる力を身に付けさせることが、力を付ける授業を構成する上で大変重要となる。

## アプローチ期のRS育成のあり方

アプローチ期（0～6才）は人が言語理解の素地を養う重要な時期です。幼児は系統立った学習を経ずして日本語という一つの言語を習得していきます。これがいかに驚くべき事かは、大人が外国語を習得しようとするときの困難さを思えば容易に理解できます。

右のグラフは、人の言語習得能力値の年齢ごとの推移です。言語習得の臨界期が幼児期であることが分かります。このことからアプローチ期の言語環境がいかに大切かを知ることができますね。

また、この能力は、幼児期に臨界を迎えた後、中学卒業時には半分以下に下がっています。高校以降にRSが伸びない理由の一つがこれです。



### 意識して欲しいこと その1

#### 質問への正しい答え方を教えてあげる

幼児期の子どもたちにもいろいろと質問をすると、だまりこんだり、聞かれていることとは関係ないことを話したりと、うまく答えることができません。もちろん、厳しくせまる必要はありませんが、質問されたことに合った正しい答えが言えるように、待ってあげたり、「○○って言うんだよ。」と答え方を教えてあげたりすることで、次第に身に付いていきます。周りの大人が粘り強く付き合っただけが大切です。

### 意識して欲しいこと その2

#### 意思を伝えることに付き合っただけあげる

幼児期の子どもたちとおしゃべりすると、主語や述語を省略して話すことが多いことに気付きます。例えば、おなかが減ったときに「おにぎり。」と主語だけ言うようなことです。このとき、「ああ、おなかがすいたんだね。はい、おにぎり。」と大人が意思をくみ取ってしまうことがよくあります。これでは、正しい意思の伝え方を学ぶ場面を奪ってしまうことになります。「どうしたの？」と優しく問い返して、正しく意思を伝える練習に付き合っただけあげましょう。

### 意識して欲しいこと その3

#### 読み聞かせで正しい日本語を聞かせる

幼児期の読み聞かせは、楽しいだけでなく、子どもたちにたくさんのことを教えてくれます。その一つが、正しい日本語です。日常会話ではあまり使わない語彙や言い回しもたくさん出てきます。ぜひ、たくさんの本を読み聞かせさせてあげましょう。